

<b>授業科目名</b>	心理学(2000015)		
<b>時間割名</b>	心理学(23105)		
<b>時間割担当</b>	野口智草		
<b>実施期</b>	後期	<b>単位数</b>	2 選択
<b>曜日・時限</b>	火・3		

### 授業の目標・概要

この授業では、現在までに蓄積されてきた科学的な心理学の主要な知識と応用の領域について、初歩的な知識を身につけます。心理学を初めて学ぶ学生の中には、もしかすると「心理学を学ぶと人の頭の中の考えを読んだりできるのかな？」と考える人がいるかもしれませんが、残念なことに、心理学は直接に人の心を「読む」役には立ちません。しかし、心の働きを科学の目で眺めることによって、「人の心にはこういう特徴があるのか」「人の心はこのようにして変化するのか」という驚きを体験することができるでしょう。自分自身の心の働きや行動を客観的に見直すことによって、他の人びとの心の働きも見えてきます。

### 学習の到達目標

この授業には2つの大きな目標があります。第1の目標は現在の心理学を形成してきた個々の重要な研究についてその概要と、それが意味することがらについて理解をすることです。第2の目標は、これらの心理学知識の応用例について知ることです。もし科学的な心理学に興味があれば、ぜひ次のステップに進んで、より高度な心理学の知識と、心理学の方法論を学んでください。

### 授業方法・形式

基本的にはパワーポイントを用いた講義形式が中心ですが、実験などの体験型内容も取り入れます。実際に体験することで心理学の知識を深めることを目的としています。

毎回授業の最後に「復習クイズ」を宿題として出題するので復習に活用してください

### 授業計画

#### 授業計画(1)

第1回 授業の計画について説明する。また、教科書の第1章に基づき、心理学のごくおおまかな歴史を紹介する。これによって、人間がみずからの「心」について系統的に知識を求めようとしてきたことについて理解することができる。

第2回 教科書の第2章に基づき、人が外界の情報を取得する感覚の神経メカニズムについて講義する。いわゆる五感について、その生理学的、神経学的基礎の初歩について理解することができる。

第3回 教科書の第3章に基づき、主として視覚の領域において、知覚のメカニズムについて講義する。これにより、われわれの知覚が必ずしも外界の刺激のありのままの認識ではないことを理解することができる。

第4回 教科書の第5章に基づき、記憶のメカニズムについて講義する。エビングハウスの先駆的研究から、現代の認知心理学的記憶理論までを概説する。これにより、心理学における実証的研究の重要性が理解できる。

第5回 教科書の第4章に基づき、学習のメカニズムについて講義する。古典的条件づけとオペラント条件づけについてその基本を理解することができ、また臨床的応用と認知心理学との関連についても理解することができる。

第6回 教科書の第6章に基づき、主に思考について講義する。ヒューリスティクスと係留効果について、実際に教室内で実験を行い、私たちの思考や判断に働く影響について理解する。

第7回 教科書の第10章に基づき、社会的認知について概説する。対人認知における歪みや、対人関係を進展させる要因について理解することができる。

第8回 教科書の第8章に基づき、発達の心理学について概要を講義する。新生児期から老年期に至る発達の過程について理解することができる。

第9回 教科書の第9章に基づきパーソナリティと心理検査について講義する。複数の心理検査の特徴を把握し、アセスメントの意義について理解することができる。

### 成績評価の基準

#### 授業計画(2)

第10回 第9回授業で学習した心理検査のうち2つを体験する。実体験することによって心理検査についてだけでなく、自己についての理解を深める。

第11回 教科書の第11章のうち、言語コミュニケーションについて講義する。性差や文化差について概説し、アサーショントレーニングを行う。これにより、爽やかな問題解決の方法について理解することができる。

第12回 教科書第11章のうち、非言語コミュニケーションについて2回にわたって講義する。第12回授業では、しぐさと姿勢、視線行動、接触行動、匂いについて説明する。

第13回 引き続き非言語コミュニケーションについて講義する。第13回授業では、表情、対人距離、音声、その他のノンバーバル行動について説明する。

第14回 教科書の第13章に基づき、臨床心理学の基礎について講義する。とりわけ青年期にある大学初年次の学生の心理的適応の問題について、その概略を理解する。

第15回 これまでの授業内容の要点を整理し、復習を行う。

#### 成績評価の基準

授業内課題および最終試験の評点によって成績をつける。配点比率は、授業内課題が35%、最終試験が65%とし、この合計点が60点未満の場合、不合格とする。

### 準備学習・復習及び授

初回の授業を除き、次回授業で取り扱うテーマについて、教科書の章を読んでから授業に臨むこと。授業終了後は、テーマごとに  
出題する「復習クイズ」を宿題として解き、自身の理解度を把握してください。理解が足りない場合には、再度その章を読み、各  
自分で復習をして下さい。

また、授業内課題を6回予定しています。それぞれA4一枚程度のレポートを作成します。

### 履修上のアドバイス及

私語を慎む、携帯電話等の電源を切る、遅刻・早退しないなど、受講する上での基本的なマナーを守って下さい。守れない学生に  
は、即刻退席してもらいます。

### 教材・教科書

『心理学概論 第2版 基礎から臨床心理学まで』（ふくろう出版）

### 参考書